

百梅園

兼坂止水の七言絶句の詩

No. _____
Date _____

誰能来借石牀眠
萬斛國香人欲仙
不許靚妝容易覩
靚妝迎月更嬌然

韻を踏んでいる

誰れか能く借る 石牀の眠り
万斛の国香 人仙ならんと欲す
許さず靚妝 容易に覩ふを
靚妝月を迎へて 更に嬌然たり

明治戊戌三月 兼止水

当時流行の、名前を中国人っぽく書く
くということで、敢えて坂を抜いて
兼止水とした。

石造りの腰かけでうたた寝していると
たくさんさんの梅の花の香りに囲まれて 俗界を離れた仙人の心地で
ある
(梅の花の香りは美しい女性の白粉の匂いと似ているので)
お化粧をした美しい女性達に囲まれているよう
その女性達をどのような方達だと覗きたくなるが容易に姿を
見せてはくれない
その女性達は月の光に照らされて 更に艶かしく美しい

明治三十一年三月 兼坂止水

兼坂止水が65歳の時に書いた詩。